

A background image showing a dynamic splash of water with many bubbles and droplets, rendered in a monochromatic blue-grey color scheme. The water is splashing upwards and outwards, creating a sense of movement and freshness.

尿路不定愁訴

はら泌尿器科クリニック

不定愁訴とは？

「不定愁訴」という言葉をご存じですか？日常会話の中ではほとんど耳にしない「愁訴」というこの言葉には、「苦しみや違和感を口に出して訴えること」という意味があり、「原因がはっきりわからないけれど、なんとなく体調が悪い」といった状態のことを「不定愁訴」といいます。体調不良を感じて病院で診察・検査を受けても、特に異常は見つからず不調の原因がわからない……。

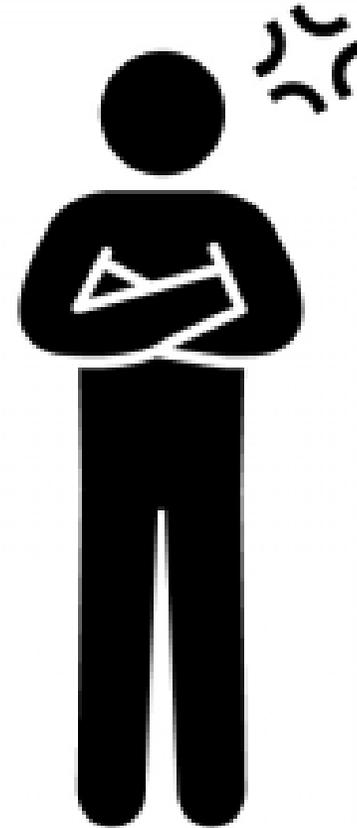
実は、こうした症状を感じている人は多く、成人では20～30%の人が不定愁訴をもつと推定された報告もあります※

- ※ Rosendal M, Olsen F, Fink P : Management of medically unexplained symptoms. BMJ 330 : 4-5, 2005

不定愁訴によくみられる 症状は？

具体的な症状や、期間・頻度は人それぞれです。ひとつの症状が長い期間続く人もいれば、複数の症状が不定期にあらわれる人もいます。

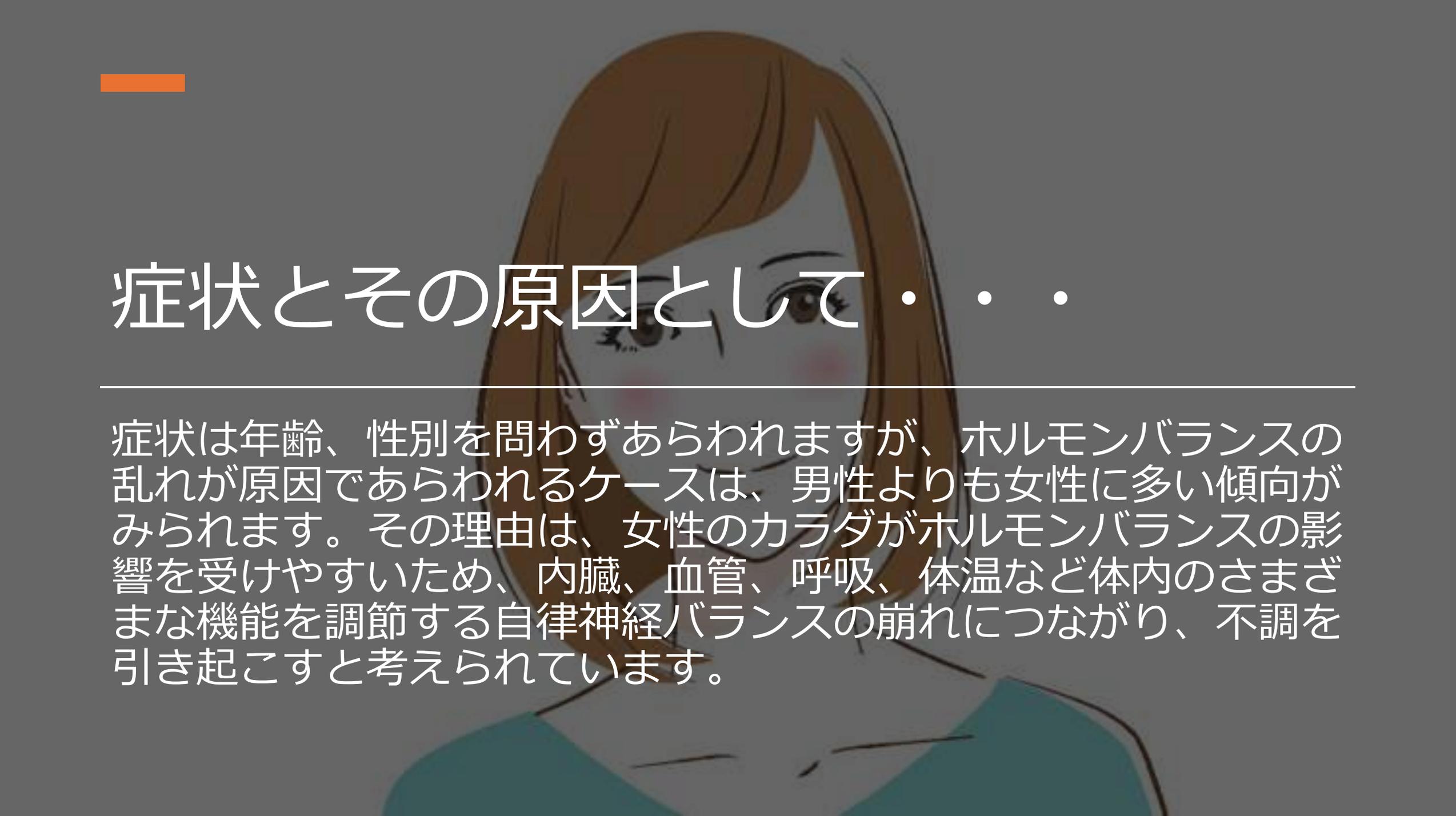
よくある症状としては、カラダのだるさ、頭痛、冷え、便秘、めまい、むくみなど、全身にあらわれる身体的な不調や、わけもなくイライラする、気分が落ち込む、眠れないなどの精神的な不調があります。



不定愁訴の原因

不定愁訴は、心身のストレス、不規則な生活習慣、ホルモンバランスの乱れなどが要因となり、自律神経のバランスが崩れたときにあらわれることが多いといわれています。そのほか、何らかの病気が原因で起こるケースもあります。



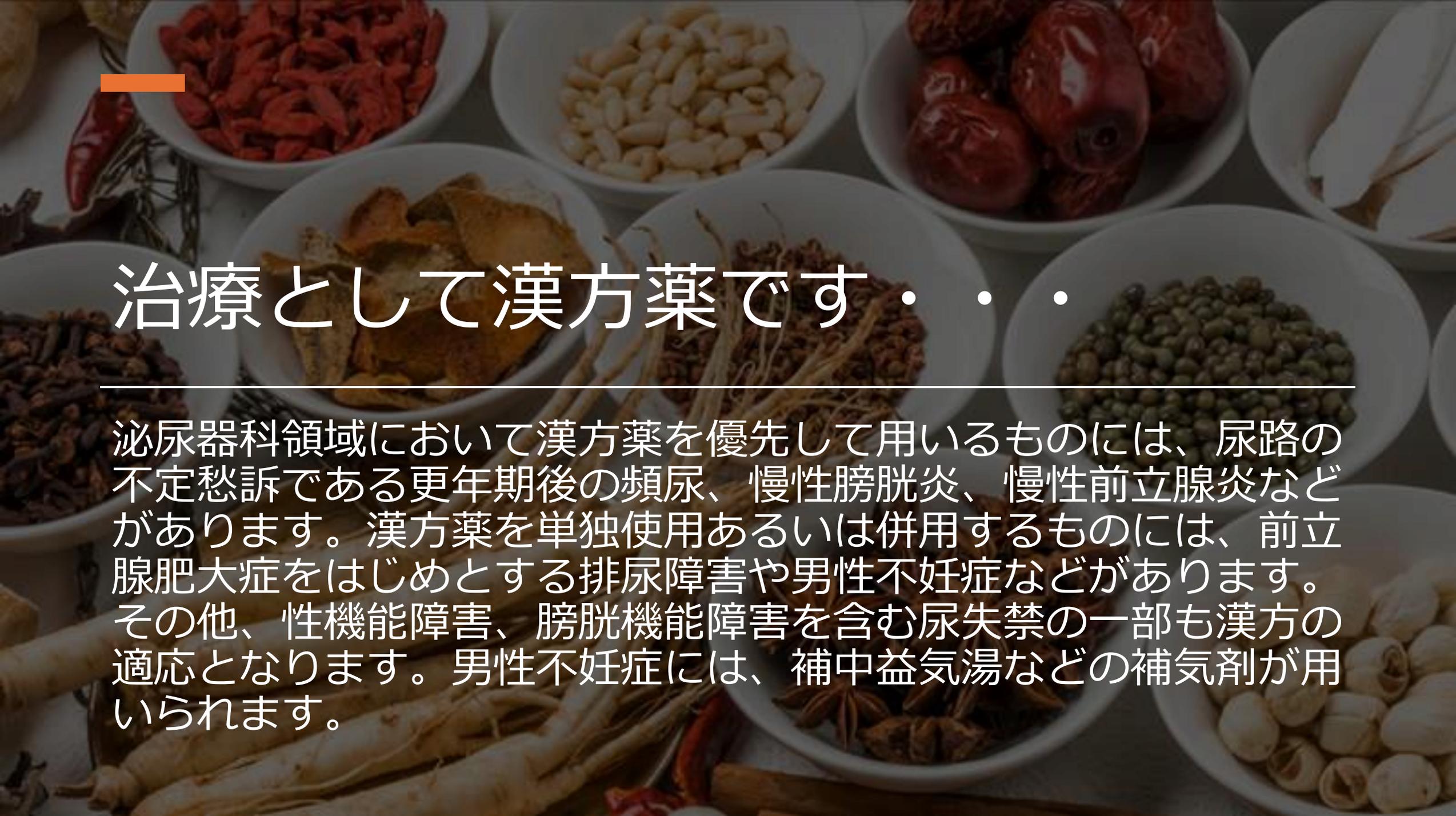


症状とその原因として・・・

症状は年齢、性別を問わずあらわれますが、ホルモンバランスの乱れが原因であられるケースは、男性よりも女性に多い傾向がみられます。その理由は、女性のカラダがホルモンバランスの影響を受けやすいため、内臓、血管、呼吸、体温など体内のさまざまな機能を調節する自律神経バランスの崩れにつながり、不調を引き起こすと考えられています。

具体的な泌尿器科症状として

1. **頻尿**: トイレに行きたい感じが強く抑えられない。
2. **排尿時痛**: 尿をする時に下腹部や尿道が痛む。
3. **残尿感**: 尿をした後でも残っている感じがする。



治療として漢方薬です・・・

泌尿器科領域において漢方薬を優先して用いるものには、尿路の不定愁訴である更年期後の頻尿、慢性膀胱炎、慢性前立腺炎などがあります。漢方薬を単独使用あるいは併用するものには、前立腺肥大症をはじめとする排尿障害や男性不妊症などがあります。その他、性機能障害、膀胱機能障害を含む尿失禁の一部も漢方の適応となります。男性不妊症には、補中益気湯などの補気剤が用いられます。

具体的には・・・

性機能障害、膀胱機能障害を含む尿失禁の一部も漢方の適応となります。男性不妊症には、補中益気湯などの補気剤が用いられます。その他、反復性膀胱炎の再発防止には猪苓湯類が使用されます。

尿路結石の排出促進には芍薬甘草湯と猪苓湯が併用されます。また、体外衝撃波結石破砕術で砂状になった結石の排出促進に猪苓湯合四物湯などが用いられます。

泌尿器科領域における漢方の適応

